

**479  $^{123}\text{I}$ -MIBGによる心筋シンチグラフィ(I)－**

MIBG体内動態と急性心筋梗塞の評価－

西村恒彦, 佐合正義, 岡 尚嗣, 片渕哲朗, 松尾剛志,  
三谷勇雄, 千葉 博, 林田孝平, 植原敏勇, 林 真(國  
循セ放診部), 野田裕幸, 高野久輝(同 研究所)

$^{123}\text{I}$ -MIBGはノルエピネフリンのアナログであり,  
その心筋へのとりこみは、交感神経機能を反映する。雑  
種成犬(正常, 梗塞作成6時間後)を用いMIBG血中消  
失曲線, 心筋集積曲線, SPECTおよび摘出心イメージ  
ング, 組織のカテコラミン定量, 染色を行なった。血中  
消失は早やかで静注3時間後で, 心筋, 肝の摂取は同程  
度であった。SPECT, 摘出心イメージングで $^{201}\text{TlCl}$ ,  
 $^{123}\text{I}$ -MIBGは同程度の欠損像を示した。 $^{123}\text{I}$ -MIBG  
は静注後3時間で明瞭な心筋像が得られ, 急性期では,  
心筋血流と同じ範囲の欠損像を示した。

**480  $^{123}\text{I}$ -MIBGによる心筋シンチグラフィ(II)－**

心筋梗塞における経時的観察－

西村恒彦, 佐合正義, 岡 尚嗣, 片渕哲朗, 松尾剛志,  
三谷勇雄, 千葉 博, 林田孝平, 植原敏勇, 林 真(國  
循セ放診部), 野田裕幸, 高野久輝(同 研究所)

雑種成犬にて作成した心筋梗塞(左回旋枝閉塞)にて  
心筋血流と交感神経支配の回復の関係について,  $^{201}\text{Tl}$   
 $\text{Cl}$ と $^{123}\text{I}$ -MIBGを用い検討した。梗塞犬6頭にて1週間,  
2週間, 1ヶ月, 2ヶ月目に,SPECTを用い欠損像の大きさを比較した。 $^{201}\text{TlCl}$ 欠損像に比し, $^{123}\text{I}$ -  
MIBGの欠損像は, とくに1, 2週間目で広く描出された。  
しかし, 時間経過とともに縮少した。本法は心筋梗塞にて  
交感神経支配の喪失, 回復過程をイメージングとして  
捉えられる可能性が示された。

**481 Metaiodobenzylguanidine(MIBG)は心筋**

内 Norepinephrine(NE)含量を反映し得る化合物か?

廣江道昭, 太田淑子, 日下部きよ子, 近藤千里, 富松宏  
文, 荷見源成\*, 薮田直也\*, 豊崎哲也\*, 重田帝子,  
岡口守衛\*(東京女子医科大学放射線科, 循環器内科\*  
)，藤原隆志，城所芳則(第一ラジオアイソトープ)

MIBGはNEと同様な機序で副腎髓質や心筋に取り  
込まれる特性を有している。一方心筋内NE含量は交感  
神経活性を示す指標であると言われており, 心不全に  
おいては重要な意味を持つ。I-125 MIBGを使用し,  
ラット心筋内のMIBG集積量(%kg dose/g)とNE含量  
を測定し, 心筋内MIBGの動態を検討した。レセル  
ビン処置群では対照群に比較して両含量は著明に低下し  
た。以上よりMIBGは心筋内NE含量を推測でき, 心  
不全の心筋交感神経活性の評価に応用できることが示唆  
された。

**482 心不全における心筋交感神経活性—I-123**

Metaiodobenzylguanidine(MIBG)による評価—

廣江道昭, 日下部きよ子, 太田淑子, 近藤千里, 富松宏  
文, 重田帝子, 岡口守衛\*, 木全心一\*(東京女子医科  
大学放射線科, 循環器内科\*) 藤原隆志, 城所芳則(第  
一ラジオアイソトープ)

心不全の進展に伴って交感神経活性が変化し, 特に心  
筋内 Norepinephrine(NE)の動態が注目されている。  
NEのアナログであるMIBGのヨード標準化合物による  
心筋イメージングを施行し, 心不全例における本法の  
意義について検討した。重症になるに従い心筋集積は低  
下し, 肺, 肝集積は増加した。TI-201心筋灌流像とは不  
均衡なMIBGの分布を観察した。この結果からI-123  
MIBGは交感神経活性の面から心不全の程度を評価し  
得る放射性医薬品であることが示唆された。

**483 I-123 Meta-iodobenzylguanidine(MIBG)によ  
る急性心筋梗塞時の交感神経支配評価の可能性。**

田中 健, 中野 元, 五十嵐正樹, 上野孝志,

加藤和三(心臓血管研究所)

日下部きよ子, 木全心一, 細田達一, 広沢弘七郎(東京  
女子医大)

I-123MIBGの心臓への取り込みは交感神経の機能を  
反映するとされている。急性心筋梗塞例においてTl像と  
MIBG像を同時に一回の検査で得る dual mode imageの可  
能性をファントムで検討した後、臨床例に適用した。  
I-123MIBG((株)第一ラジオアイソトープ研究所製)とTI-  
201心筋SPECT像とともにカットオフレベルを50%とすれば  
十分であった。一般にMIBG像の欠損はTl像のそれより大  
きく3例のPTCR例ではTl像では取り込み低下像であった  
がMIBG像では明確な欠損像を認めた。発作時に虚血に  
さらされた部位では亜急性期に心筋灌流が改善しても交  
感神経支配が低下していることが示された。